

平成 21 年度農林水産省補助事業

平成 21 年度食品廃棄物発生抑制推進事業 普及啓発検討員会報告書

平成 22 年 3 月

財団法人食品産業センター

はじめに

本報告書は、平成 21 年度農林水産省総合食料局食品産業企画課の補助事業「食品廃棄物発生抑制推進事業（１）」について検討し、実施した結果を報告書としてとりまとめたものである。

この事業は、以下に示すことを検討する目的で実施された。

食品廃棄物の発生を抑制するために、発生状況の具体的な把握を行った上で、食品事業者に向けて食品廃棄物の発生抑制に係る法制度や具体策の周知を行う。

1. 食品廃棄物の発生抑制を推進するためには、食品廃棄物等の発生状況の把握や、発生抑制への取組み、問題点等を調査し課題解決へ向けての具体策等を提示する必要がある。そのために、文献調査やアンケート、実態調査を行い現状を把握する。
2. 食品廃棄物の発生抑制は、我が国の食料の安定確保にとって重要であり、食品事業者はもとより、消費者と一体となって取組むべき課題であることを、食品関連事業者が認識し、食品廃棄物発生抑制の取組みの更なる意識向上と積極的な消費者の理解・協力を得るための企業活動の促進を図る。

上記 1 については食品廃棄物等発生抑制調査検討委員会、2 については普及啓発検討委員会において具体的事項の検討を行ったが、本書では 2 の普及啓発検討委員会での検討結果について報告する。

本年度の検討を終えるに当たり、当事業に携わって頂いた検討委員会の委員の方々及び農林水産省総合食料局食品産業企画課食品環境対策室の担当官の方々、並びに調査に協力頂いた方々に厚くお礼を申し上げます。

平成 22 年 3 月

財団法人 食品産業センター

委員会名簿

平成21年度食品廃棄物発生抑制推進事業
普及啓発検討委員会委員名簿

氏名	所属・役職
秋 元 健 二	特定非営利活動法人セカンドハーベストジャパン 渉外担当理事
石 川 博	株式会社アドミレーションセンター チーフプロデューサー
牛久保 明 邦	東京農業大学 理事・教授
岡 本 邦 義 (平成21年6月19日～ 平成21年12月18日)	山崎製パン株式会社 総務本部 総務部 環境対策課長
伊 藤 慎 一 (平成21年12月19日～ 平成22年3月31日)	山崎製パン株式会社 総務本部 総務部長
鬼 沢 良 子	特定非営利活動法人持続可能な社会をつくる元気ネット 事務局長
新 倉 充	株式会社日報アイ・ビー 月刊廃棄物編集部 課長
森 出 芳 孝	ミニストップ株式会社 経営企画本部 コミュニケーション推進部長

五十音順／敬称略

委員会開催日と主な議事

第1回普及啓発検討委員会

平成21年6月19日（金）

食品産業センター会議室

1. 平成21年度食品廃棄物発生抑制推進事業の進め方について
2. フォーラム等開催案について
3. その他

第2回普及啓発検討委員会

平成21年12月18日（金）

食品産業センター会議室

1. 平成21年度食品廃棄物発生抑制推進事業の進捗状況の報告
2. フォーラム等開催案について
3. その他

第3回普及啓発検討委員会（合同）

平成22年3月4日（木）

東海大学校友会館

1. 普及啓発検討委員会の実施報告
2. 食品廃棄物等発生状況調査検討委員会の実施報告
3. その他

目次

I	事業の趣旨	5
II	背景	6
III	普及啓発活動	7
1.	食品ロス削減ポスターの作成	7
(1)	8枚組みのポスターの記載内容	7
(2)	ポスター規格	7
(3)	画像データファイル（PDF形式）	7
(4)	ポスター等の貸し出し	8
2.	食品ロスの削減に向けた国民フォーラム	17
(1)	参加者の募集	17
(2)	「食品ロスの削減に向けた国民フォーラム」開催概要	24
表1	食品ロスの削減に向けた国民フォーラム開催概要	24
表2	アンケート票	27
表3-1	国民フォーラムにおけるアンケート調査結果	28
表3-2	国民フォーラムにおけるアンケート調査結果の概容	29
3.	食品ロス削減推進セミナー	30
表4	食品ロス削減推進セミナーの開催概要	30
表5	食品ロス削減推進セミナー参加者の所属	31
表6	食品ロス削減推進セミナーの内容の理解度	32
4.	食品ロス削減啓発展示	33
表7	食品ロス削減啓発展の開催概要	33
IV	結論	46
参考資料1-1	食品ロスの削減に向けた国民フォーラム東京会場テキスト	49
参考資料1-2	第2部パネルディスカッション コーディネーター・パネリスト紹介 (名古屋会場、大阪会場、福岡会場テキストより抜粋)	65
参考資料2	食品ロスの削減に向けた国民フォーラム第一部トーク&トーク」台本	69
参考資料3	食品ロスの削減に向けた国民フォーラムアンケートにおける今後の取り組みや 意見等に関する自由記述内容	77
参考資料4	食品ロス削減推進セミナーアンケート記述内容	107

I 事業の趣旨

財団法人食品産業センターは、長年、食品廃棄物の発生抑制と資源としての有効活用に向けて、食品企業の取組みを支援してきたところである。こうした当センターの活動も相まって、食品企業の取組みが進み、食品循環資源の再生利用の実施率は、食品リサイクル法施行初年度の平成13年度の37%から平成19年度には54%に達するなど着実に進展してきたが、食品廃棄物の発生量は、増加基調が続いており、発生抑制は進んでいない状況にある。

我が国では、年間約1,900万トンの食品廃棄物が排出され、このうち、食べられずに廃棄される食料品は年間約500～900万トンと推計される。

この様に、本来食べられるにもかかわらず廃棄されているもの：「食品ロス」は食品廃棄物発生量全体の約3～5割を占め、かつ食料自給率が先進国中最低の水準にある我が国であることから、「食品ロス」の実態は大きな国民的関心事となってきた。

食品ロスの発生には、直接的、間接的に様々な要因が関わっており、ある特定の立場の者（食品関連事業者、消費者など）に食品ロスの削減の責を負わせるべきものではないが、食品ロスの削減に向けて関係者が一体となって取り組むべきとの認識を周知する活動が必要である。

すなわち、食品ロスの削減は国民全体の課題であり、食品ロスの現状を把握しその削減に向けた対応方向について、その周知のあり方の戦略的検討を行った上で、食品企業や消費者を含めた国民全体に向けたフォーラム・セミナー開催等により食品ロスの削減に係る周知活動を実施した。

Ⅱ 背景

廃棄物の発生を抑制するとともに、資源の循環利用を促進することにより、環境への負荷を出来る限り低減する環境型社会の構築や、環境との調和のうに我が国国家経済を持続的に発展させることを目的とした環境型社会形成推進基本法（平成１２年法律第１１０号）が、平成１２年に制定された。この環境型社会形成推進基本法の理念に基づき、食品廃棄物を食品循環資源として捉えて、これら食品循環資源の有効利用（再生利用等）と食品廃棄物の排出抑制を図ることなどを目的とする「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（平成１２年法律第１１６号。略称「食品リサイクル法」）が制定され、関係政省令を整備し平成１３年５月１日に施行された。

食品リサイクル法は、施行後５年を経過した時点で、法の施行状況について検討を加え、その結果に基づき必要な措置を講ずることとされていることから、食品リサイクル法の一部を改正する法律案が、平成１９年６月６日の参議院本会議において可決・成立し、６月１３日の公布を経て、１２月１日に施行された。

改正により平成２１年度からは食品廃棄物等多量発生事業者（年間１００トン以上）は、食品廃棄物等の発生量や食品循環資源の再生利用等の状況を報告することが義務付けられた。本法律の対象者である食品関連事業者（食品製造業者、食品流通業者、食品小売業者、外食業者）は、法の遵守に向け様々な取組みを行っているが、取組みにおいて格差があり、積極的な事業者と消極的な事業者の格差、食品製造業と食品小売業及び外食産業の業種間の格差も大きい。

我が国では国内及び海外から調達された農林水産物が年間約９，０００万トン食用に向けられているが、一方で食品関連事業者から約８００万トン、一般家庭から約１，１００万トン、あわせて年間約１，９００万トンの食品廃棄物が排出されている。

食品廃棄物には製造過程で発生する製造副産物や調理くずなど食用に供するには適さないものだけでなく、本来食べられるにもかかわらず廃棄されている「食品ロス」が相当程度含まれている。この「食品ロス」は年間約５００万～９００万トンと推計され、食用向け農林水産物の約５～１０％、食品由来の廃棄物の約３０％から５０％を占めると推計される、

食料自給率が先進国中最低水準にある我が国において、大量の食料品が食べられずに廃棄され、結果として必要以上の食料が輸入されているとすれば、食料自給率を引き下げる要因の一つになることになる。食料の安定供給を将来にわたって確保するためには、国内農林水産業及び食品産業の食料供給力強化と併せて、このような「食品ロス」の実態について改善することが必要である。

このような状況を踏まえ、食品関連事業者及び消費者がそれぞれの段階で「食品ロス」の削減に向けて取り組むべき課題を幅広い観点から検討するため、食品関連事業者、消費者、学識経験者により構成する「食品ロスの削減に向けた検討会」が農林水産省総合食料局に設置され、平成２０年８月から６回に亘る検討会を経て、平成２０年１２月に「食品ロスの現状とその削減に向けた対応方向について」がとりまとめられた。

このとりまとめにおいて、「食品ロス」の削減に向けて、食品関連事業者や消費者が一体となって取り組むべき方向が示されたことを受けて、食品廃棄物等の発生抑制の取り組みが効果的に推進されるよう、普及啓発活動を実施することとした。

Ⅲ 普及啓発活動

普及啓発検討委員会で検討した結果、食品ロス（本来食べられるのにも関わらず廃棄されている「食品」）については、食品関連事業者（食品製造業、食品卸売業、食品小売業、外食産業）のみならず消費者までを含んだフードチェーン全体に関わることであるため、普及啓発の内容、対象もフードチェーン全体に対応することにした。

普及啓発のためにはまず食品ロスについて解説する資料が必要となることから、第一に食品ロスの現状や課題について解説するポスターを作成することにした。

次に具体的な普及啓発活動として、主要都市での食品ロス削減フォーラムや食品ロス削減推進セミナーを開催するとともに、食品業界イベントや環境関連イベントで食品ロス削減ポスター等の展示を行うことを計画し実行した。

1. 食品ロス削減ポスターの作成

食品ロスの削減に向けた啓発資料として8枚組みのポスター（図1-1～8）を作成し、食品ロスの削減に向けた国民フォーラム会場、環境セミナー会場や啓発展示会場に掲示した。さらにその画像データを食品産業センターのホームページ上に公開し、画像データをダウンロードすることで広く活用できるようにした。

（1） 8枚組みのポスターの記載内容

- ① 食品ロスについての簡潔な説明
- ② 食品ロスの問題点
- ③ 食品ロスの具体例等の紹介
- ④ 食品ロスの削減に向けた提案
- ⑤ 食品メーカー・卸・小売向け事例紹介、提案
- ⑥ 飲食店向け事例紹介、提案
- ⑦ 消費者向け期限表示の解説
- ⑧ 消費者向け事例紹介、提案

（2） ポスター規格

ポスターはA1サイズ（縦841mm×横594mm）、4色刷り、8枚1組として6組作成した。ポスターそれぞれをラミネート加工し、4隅には鳩目加工を施すことによって、壁面への接着による掲示や画鋸による掲示を繰り返し行うことを可能にした。また専用ケースを用意して簡便に輸送できるようにした。

（3） 画像データファイル（PDF形式）

食品産業センターのホームページ上で以下のファイルを公開し、印刷して利用できるようにした。

- ① ポスター1組（8枚）を1ページとしたファイル（904KB）

- ② ポスター 1 枚で 1 ページとしたファイル（8 ページ）（約 9 MB）

（４）ポスター等の貸し出し

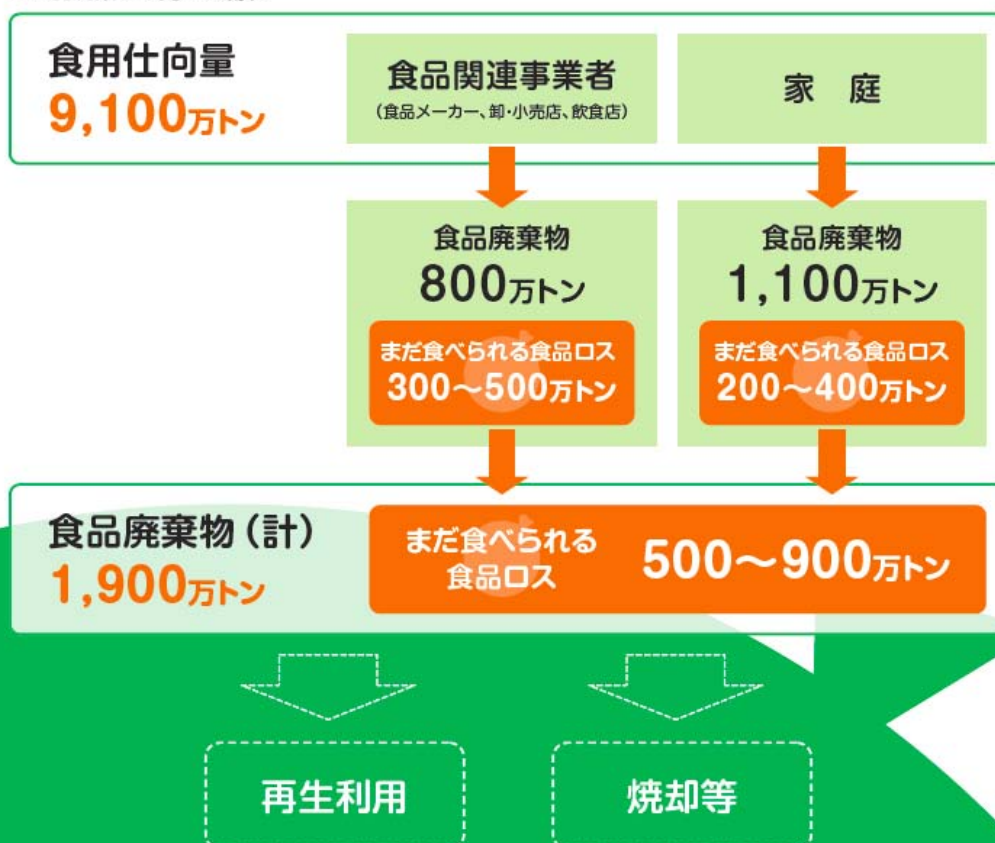
以下の企業・団体等へのポスターを貸し出し、またはホームページ上のデータ利用があった。

- ① 香川県食品産業協議会：ポスター貸し出し
- ② 農林水産省 九州農政局：データ利用
- ③ 農林水産省 北陸農政局：データ利用
- ④ （株）農協観光 東北販売企画センター：ポスター貸し出し
- ⑤ 株式会社ブルボン：データ利用
- ⑥ 社団法人日本能率協会 産業振興本部：ポスター貸し出し
- ⑦ 日本水産株式会社 S C M 部広域物流課：ポスター貸し出し
- ⑧ 株式会社ニチレイフーズ 生産技術部：ポスター貸し出し及びデータ利用
- ⑨ （株）農協観光 九州グリーンツーリズム支店：ポスター貸し出し
- ⑩ 横浜市 資源循環局 減量・美化推進課：ポスター貸出し
- ⑪ 株式会社エコス 経営企画部 環境推進室：ポスター貸出し・データ利用

ご存じですか？「食品ロス」。

日本では、年間約1,900万トンの食品廃棄物が排出されています。この中には、本来食べられるにもかかわらず捨てられているもの、いわゆる「食品ロス」が約500～900万トン含まれていると推計されます。

●食品廃棄物の発生と流れ



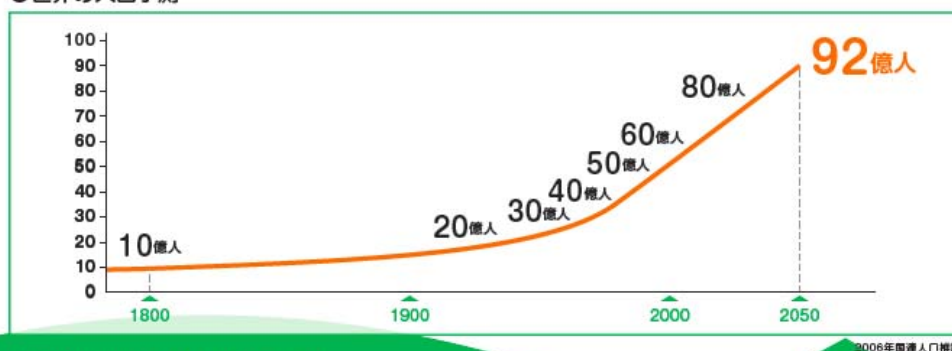
平成17年度食料需給表・平成18年度食品廃棄物の再生利用等実態調査報告・平成17年度食品ロス統計調査(農林水産省)と一般廃棄物の排出及び処理状況・
産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成17年度実績、環境省試算)をもとに農林水産省総合食料局が試算

図1-1 食品ロス削減ポスター

なぜ、「食品ロス」が問題なの？

日本の食料自給率は41% (カロリーベース) です。多くの食料を輸入に頼っています。一方、世界の食料需給は人口増加や経済発展などによって不安定な状況にあります。これからも、私たちが安定した食生活を送るためには、食料自給率を上げて食料供給を安定させるだけでなく、食品や食材をムダなく大切に使うことが重要です。

●世界の人口予測



2006年国連人口推計

●シカゴ相場の農産物価格の推移



注: シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期五価格

農林水産省／(財)食品産業センター

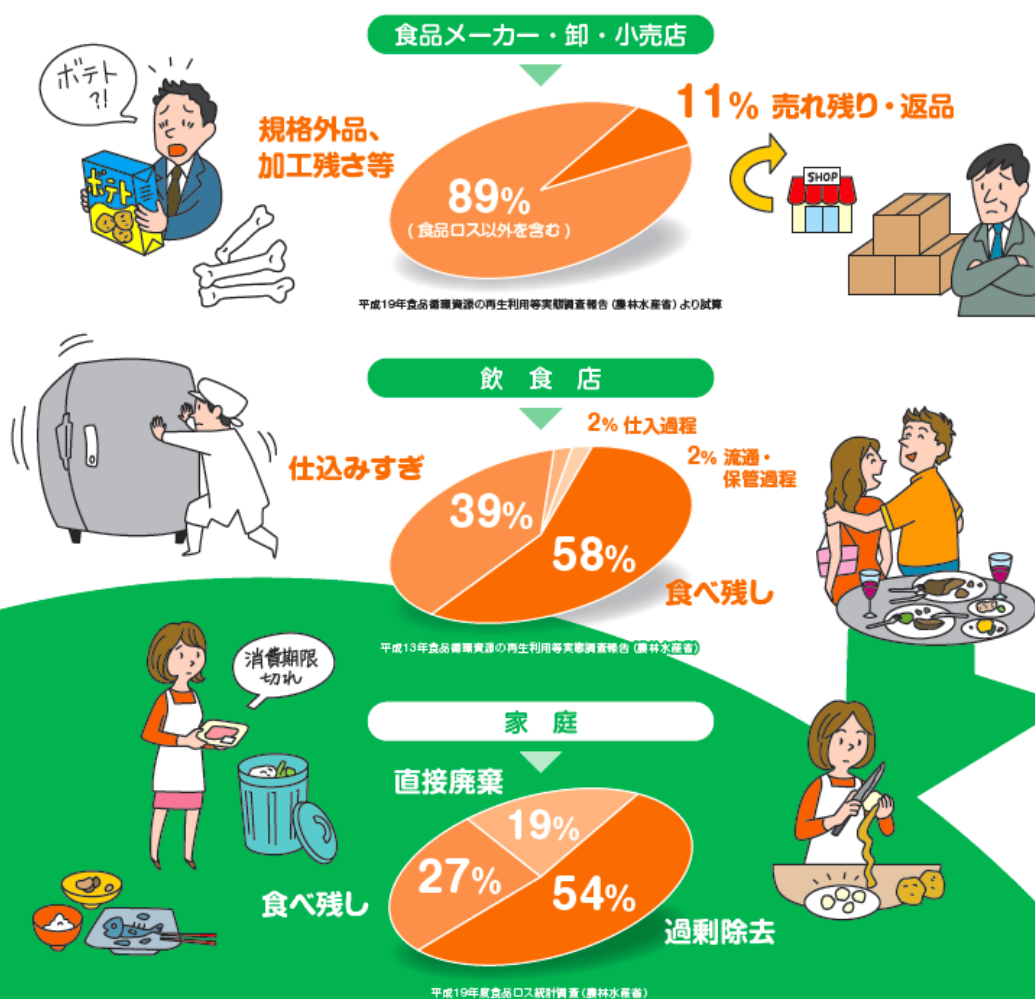
平成21年度

図1-2 食品ロス削減ポスター

なにが、「食品ロス」になるの？

食品ロスは製造・流通・消費とあらゆる段階で発生しています。食品関連事業者は、食品リサイクル法に基づき食品ロスが発生しないよう様々な努力をしていますが、消費者も食品ロスを削減するよう努めることが重要です。

食品ロスの原因



農林水産省／(財)食品産業センター

平成21年度

図1-3 食品ロス削減ポスター

「食品ロス」を減らすためには？

食べものへの感謝の気持ちを大切にしましょう。

「いただきます」は、自然の恵みや生きものの命を
いただいて、私たちが生きていることへの感謝の
気持ちをあらわしているともいわれています。

食べられるものは簡単に捨てない。

ものを大切にする「もったいない」の心で、
最後まで「残さず食べる」を心がけましょう。



農林水産省／(財)食品産業センター

平成21年度

図1－4 食品ロス削減ポスター



「食品ロス」を減らすためには？

適切な期限設定や販売契約で 返品や廃棄を減らしましょう。

消費期限や賞味期限は適切な設定を。

- ・消費期限や賞味期限は科学的根拠にもとづいて設定しましょう。
- ・納入期限や販売期限は商品ごとの特性を踏まえて設定しましょう。

(注) 販売期限：小売店が商品管理の必要性から独自に設定する、店頭で商品を販売する期限のこと。

売れ残り、廃棄されていませんか？

- ・食品メーカーと小売店の取引は買取契約を原則として、返品がやむをえない場合はあらかじめ条件を明確にしましょう。
- ・業態や商品の特性に合わせて、売れ残りは値引きや見切り販売など廃棄にならない工夫をしましょう。

“もったいない”その思いに応える…

～規格外品の活用事例～

- ・規格外品はフードバンクなどで食品として活かしましょう。

フードバンクとは？

フードバンクとは、食品としての品質には問題ないが、包装における破損や印字ミスなどの理由で、やむなく市場には流通させることができない賞味期限の残っている規格外品を、メーカーや小売店などから引き取って、福祉施設等へ無償で提供する食品ロス削減と社会貢献活動を同時に実現するシステムです。



写真提供：セカンドハーベスト・ジャパン(NPO法人)

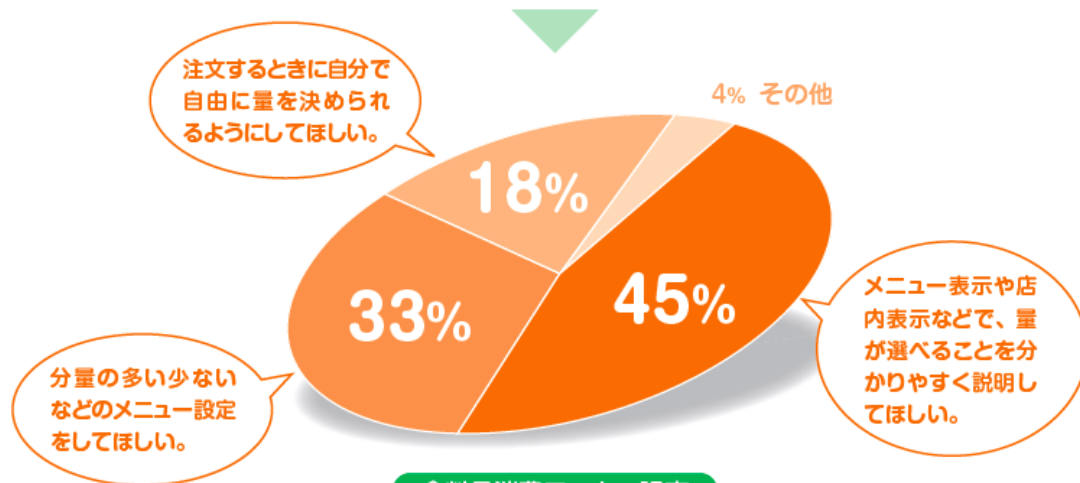
図1-5 食品ロス削減ポスター

飲食店

「食品ロス」を減らすためには？

お客様の食べられる量や好みを聞いて、
食べ残しを減らしましょう。

食べ残さないために、消費者が飲食店にのぞむこと



食料品消費モニター調査

平成17年度食料品消費モニター調査（農林水産省）



福井県での
取組事例

福井県では食べ残しを減らすために、飲食店などの協力を得て「おいしいふくい食べきり運動」を展開しています。メニューには「小盛りできます」「食べられないものがあれば相談してください」などの表示も。

農林水産省／(財)食品産業センター

平成21年度

図1-6 食品ロス削減ポスター

家庭

「食品ロス」を減らすためには？

賞味期限と消費期限を正しく理解して、ムダな廃棄を減らしましょう。

賞味期限とは？

定められた方法で保存した場合に
おいしく食べられる期限のことです。
比較的保存のきく食品につけられます。



賞味期限をすぎても、
すぐに食べられなくなるわけではありません。

食べられるかどうかは、においや見た目など
五感で個別に判断しましょう！

消費期限とは？

定められた方法で保存した場合に
安全に食べられる期限のことです。
いたみやすい食品につけられます。
これをすぎたら食べない方がいいでしょう。



(注) それぞれの期限は未開封の場合です。一度開封した食品は表示された期限にかかわらず、早めに食べましょう。

●賞味期限と消費期限のイメージ

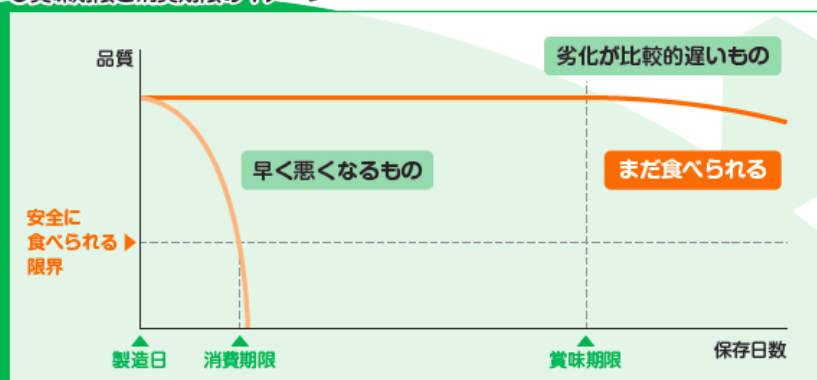


図1-7 食品ロス削減ポスター

家庭

「食品ロス」を減らすためには？

食べものへの感謝の心をもって、
食材をムダなく使い切りましょう。

ムダなく使い切るために。



買いすぎない

買物前にはメニューを考え、冷蔵庫を Check しましょう



作りすぎない

食べきれる量を調理しましょう
残ったものは他の料理に作りかえましょう



ため込まない

ため込みすぎて期限切れ
こんなことのないように冷蔵庫を定期的に Check しましょう



調理方法や献立を工夫しましょう！

図 1－8 食品ロス削減ポスター

2. 食品ロスの削減に向けた国民フォーラム

食品ロスは製造から消費に至るフードチェーンの各段階から様々な要因で発生しており、その削減を図るためには食品関連事業者と消費者が認識を共有して取組みを進めることが必要である。このため、食品ロス削減に向けた具体的な取組みを進めている方々を交えたフォーラムを開催し、本テーマ（「食品ロス」）に関して国民的運動レベルまでの醸成を図ることにし、フォーラムの名称も「国民フォーラム」とした。

国民フォーラムは2部制とし、第1部では話題性を高めながら食品ロスについての基本的解説を行い、わかりやすく理解できるように、食品ロス問題の専門家である東京農業大学の牛久保教授と環境問題に関心の高いタレント中西哲生氏の二人による対談形式のトーク&トークとした。第2部では食品の製造から流通、消費に至るそれぞれの段階や主体による食品ロス削減に向けた意欲的な取組みを紹介するなど、食品関連事業者、行政、学識経験者、消費者それぞれの立場からの取組み紹介や会場からの質問、意見交換を交えパネルディスカッションを行う構成にした。大阪会場の第1部トーク&トークでは中西哲生氏に替わって市田ひろみ氏が聞き手として参加した。

今年度は東京、名古屋、大阪、福岡の4都市で開催することにし、第1回目は平成21年9月28日（月）に東京都港区のヤクルトホールで開催し、以下10月9日（金）に愛知県名古屋市の名古屋国際センター、10月20日（火）に大阪府大阪市の国民会館武藤記念ホール、10月30日（金）に福岡県福岡市のTKP博多シティセンターで開催することとした。

食品ロスの削減にはフードチェーンのすべての段階での情報・認識の共有化が必要であることから、本フォーラムの対象者は食品製造業者、流通業者（卸・小売）、外食業者等の食品関連事業者及び消費者とした。

（1）参加者の募集

本フォーラムは食品製造業者だけに留まらず、食品関連事業者全体及び消費者も対象とするため、以下の通り広範囲の様々な広報活動を行い参加者の募集に努めた。

① 食品産業センターのホームページに開催案内を掲載し募集

② 開催案内（図2-1、2）を1万部作成し、以下の通り配布

ア 食品産業センターで開催する「連絡協議会」にて会員に配布

イ 日本商工会議所、東京商工会議所に配布するとともに、それぞれが発行する機関誌及びホームページに開催案内を掲載

ウ 全国消費者団体連絡会に配布するとともにホームページに掲載

エ 全国生活学校連絡協議会に配布

オ 全国の食品産業協議会等関連団体、及び開催地域の農政局、農政事務所、県庁、市役所宛公文書による案内を添付し広報等協力要請

③ 農林水産省の記者クラブ（農政クラブ、農林記者会）及び開催地域のマスコミ各社への開催案内の投げ込み

- ④ 食品工業総合名鑑をもとに、開催地域の食品関連事業者へ開催案内と参加申込書を直接ファクシミリ送信
- ⑤ 大学・専門学校等の食品関連学部（フードスペシャリスト養成校）、開催地域の自治会、地域生協、開催地域消費者団体へ開催案内と参加申込書を直接ファクシミリ送信
- ⑥ **FOOD ACTION NIPPON**（FAN：フードアクションニッポン）の推進パートナーとなり、FAN のホームページで開催案内を掲示
- ⑦ 中西哲生氏の公式ホームページ、ドギーバッグ普及委員会のホームページにて開催案内を掲示
- ⑧ 開催案内をベースにしたB 1 サイズのポスター（図 3）を作成し、J R 新宿駅、J R 渋谷駅、東京メトロ新宿駅、東京メトロ渋谷駅及び西鉄天神駅にフードアクションニッポンのポスターとともにそれぞれ 1 週間掲出（図 4－1～1 0）

“みんなで考えよう”
国民フォーラム開催のお知らせ

参加費：無料！

食品ロス

主催：財団法人 食品産業センター 共催：農林水産省

東京会場

9月28日(月) ヤクルトホール

午後2時～4時20分

食品ロス[※]は、製造から消費に至るフードチェーンの各段階から様々な要因で発生しており、その削減を図るためには、食品関連事業者と消費者が認識を共有し、取組を進める必要があります。そこで、このたび農林水産省と当センターでは、「食品ロスの削減に向けた国民フォーラム」を開催することとしました。この機会に多くの皆様にご参加いただきますようお願いをしております！

(参加お申し込みは裏面をご覧ください。)

※食品ロス：食べられるのに食べ残されたり廃棄されたもの。



東京農業大学 牛久保 明邦さん



スポーツジャーナリスト 中西 哲生さん



環境ジャーナリスト 崎田 裕子さん

【第1部】トーク&トーク

聞き手の中西さんと解説者の牛久保さんが対談する形で、食品ロスとはなにか、何が問題なのかを追って解説します。

【第2部】パネルディスカッション

崎田裕子さんをコーディネータとして、食品ロス削減への取組み事例紹介のほか、会場の皆様のご意見も交えてパネルディスカッションを行います。

東京会場のパネリストは

- 山崎製パン 岡本邦義さん ●ミニストップ 森出芳孝さん
- 松屋フーズ 宮腰智裕さん
- 持続可能な社会をつくる元気ネットワーク 鬼沢良子さん
- 東京農業大学 牛久保明邦さん ●農林水産省担当官

名古屋会場

10月9日(金) 午後1時30分～3時50分
名古屋国際センターホール
(愛知県名古屋市)

大阪会場

10月20日(火) 午後2時～4時20分
国民会館 武藤記念ホール
(大阪府大阪市)

福岡会場

10月30日(金) 午後2時～4時20分
TKP博多シティセンター
(福岡市博多区)

これらの会場でも開催します。パネルディスカッション各会場のパネリストはホームページからご確認ください。

<http://www.shokusan.or.jp>

図2-1 開催案内(表)

「食品ロス削減に向けた国民フォーラム」

主催：財団法人 食品産業センター 共催：農林水産省

参加費：無料！

- | | | |
|--------|-----------------------|---------------|
| ○東京会場 | 9月28日(月) | 午後2時～4時20分 |
| | ヤクルトホール(東京都港区) | |
| ○名古屋会場 | 10月9日(金) | 午後1時30分～3時50分 |
| | 名古屋国際センターホール(愛知県名古屋市) | |
| ○大阪会場 | 10月20日(火) | 午後2時～4時20分 |
| | 国民会館 武藤記念ホール(大阪府大阪市) | |
| ○福岡会場 | 10月30日(金) | 午後2時～4時20分 |
| | TKP 博多シティセンター(福岡市博多区) | |

参加申込み書

ご希望の会場をチェックし、必要事項をご記入のうえ、当センターあてFAXにてお申し込みください。
定員になり次第募集を締め切ります。皆様のお申し込みをお待ちしております！
なお、各会場のパネリストの方々はここらからご確認ください。 <http://www.shokusan.or.jp>

以下にご記入いただき、このままFAXにて送信ください。

FAX: 03-3224-2398

(財)食品産業センター技術部行き

お申込日	月 日 ()	
参加希望会場	☐ 東京会場 (9月28日(月) 14:00～ / ヤクルトホール) ☐ 名古屋会場 (10月9日(金) 13:30～ / 名古屋国際センターホール) ☐ 大阪会場 (10月20日(火) 14:00～ / 国民会館武藤記念ホール) ☐ 福岡会場 (10月30日(金) 14:00～ / TKP 博多シティセンター) ↑参加ご希望の会場を□にチェックしてください。	
お名前		
フリガナ 企業又は団体名		
電話/FAX 番号	電話：	FAX：

★お申し込んだ方には参加証をFAXにてお送りいたします。当日ご持参ください。

★お問い合わせ先：(財)食品産業センター技術部 電話：03-3224-2380

★「食品ロス削減に向けた国民フォーラム」は、当センターホームページでも紹介しております。

<http://www.shokusan.or.jp>

食品ロス

みんなで考えよう
国民フォーラム開催
のお知らせ

主催：財団法人 食品産業センター 共催：農林水産省 参加費：無料！

東京会場

9月28日(月) ヤクルトホール

午後2時～4時20分

食品ロス[※]は、製造から消費に至るフードチェーンの各段階から様々な要因で発生しており、その削減を図るためには、食品関連事業者と消費者が認識を共有し、取組を進めることが必要です。

そこで、このたび農林水産省と当センターでは、「食品ロスの削減に向けた国民フォーラム」を開催することとしました。この機会に多くの皆様にご参加いただきますようお願いをしております！

※食品ロス：食べられるのに食べ残されたり廃棄されたもの。



東京農業大学 牛久保明邦さん



スポーツジャーナリスト 中西哲生さん



環境ジャーナリスト 崎田裕子さん

【第1部】トーク&トーク

聞き手の中西さんと解説者の牛久保さんが対談する形で、食品ロスとはなにか、何が問題なのかを追って解説します。

【第2部】パネルディスカッション

崎田裕子さんをコーディネータとして、食品ロス削減への取組事例紹介のほか、会場の皆様のご意見も交えてパネルディスカッションを行います。

東京会場のパネリストは

- ・山崎製パン 岡本邦義さん・ミニストップ 森出芳孝さん
- ・松屋 宮腰智裕さん
- ・持続可能な社会をつくる元気ネットワーク 鬼沢良子さん
- ・東京農業大学 牛久保明邦さん・農林水産省担当官

名古屋会場 10月9日(金) 午後1時30分～3時50分

名古屋国際センターホール (愛知県名古屋市)

大阪会場 10月20日(火) 午後2時～4時20分

国民会館 武藤記念ホール (大阪府大阪市)

福岡会場 10月30日(金) 午後2時～4時20分

TKP博多シティセンター (福岡市博多区)

これらの会場でも開催します。

パネルディスカッション各会場のパネリストはホームページからご確認ください。

www.shokusan.or.jp

図3 駅貼りポスター(東京用)

◆東京会場ポスター掲出



図 4-1 JR 新宿駅



図 4-2 JR 新宿駅



図 4-3 JR 渋谷駅



図 4-4 JR 渋谷駅



図 4-5 メトロ丸の内線新宿駅



図 4-6 メトロ丸の内線新宿駅



図 4-7 メトロ半蔵門線渋谷駅



図 4-8 メトロ半蔵門線渋谷駅

◆福岡会場ポスター掲出



図 4-9 西鉄福岡（天神）駅



食品ロス削減国民
フォーラム案内

図 4-10 西鉄福岡（天神）駅ボックス

(2)「食品ロスの削減に向けた国民フォーラム」開催概要

国民フォーラムの開催概要を表1にまとめた。第1部のトーク&トークは全4回とも同一の内容にし(大阪会場の対談者は市田ひろみ氏)、第2部のパネリストには、可能な限り開催地域に関係の深い方々に参加していただくようにした。

表1 食品ロスの削減に向けた国民フォーラム開催概要

	開催日・会場	出席者		参加人数 (申込数)
1	9月28日(月) 14:00～16:20 ヤクルトホール (東京都港区)	第1部	牛久保明邦(東京農業大学) 中西哲生(スポーツジャーナリスト)	383 (520)
		第2部	崎田裕子(環境ジャーナリスト)※ 牛久保明邦(東京農業大学) 岡本邦義(山崎製パン(株)) 鬼沢良子(NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット) 森出芳孝(ミニストップ(株)) 宮腰智裕((株)エム・エル・エス) 新井ゆたか(農林水産省総合食料局)	
2	10月9日(金) 13:30～15:50 名古屋国際センター (愛知県名古屋市)	第1部	牛久保明邦(東京農業大学) 中西哲生(スポーツジャーナリスト)	134 (195)
		第2部	崎田裕子(環境ジャーナリスト)※ 牛久保明邦(東京農業大学) 岡本邦義(山崎製パン(株)) 岩月宏子(なごや環境大学) 松井 淳(ユニー(株)) 箕裏勝彦(サトレストランシシステムズ(株)) 村田吉隆(名古屋市環境局)	
3	10月20日(火) 14:00～16:20 国民会館武藤記念 ホール (大阪府大阪市)	第1部	牛久保明邦(東京農業大学) 市田ひろみ(エッセイスト)	160 (187)
		第2部	崎田裕子(環境ジャーナリスト)※ 牛久保明邦(東京農業大学) 花嶋温子(大阪産業大学) 井手 弘(日本ハム(株)) 古山勇起(西山寛商事(株)) 箕裏勝彦(サトレストランシシステムズ(株)) 荒木祐二(農林水産省近畿農政局)	
4	10月30日(金) 14:00～16:20 TKP 博多シティ センター (福岡県福岡市)	第1部	牛久保明邦(東京農業大学) 中西哲生(スポーツジャーナリスト)	74 (85)
		第2部	崎田裕子(環境ジャーナリスト)※ 牛久保明邦(東京農業大学) たいら由以子(NPO法人循環生活研究所) 川原正孝((株)ふくや) 森出芳孝(ミニストップ(株)) 宮腰智裕((株)エム・エル・エス) 矢花渉史(農林水産省総合食料局)	
計				751 (976)

※コーディネーター

食品ロスの削減に向けた国民フォーラムの第1回は、平成21年9月28日に東京のヤクルトホール（定員550人）で開催した。表1に示した通り参加申込は520人あり、そのうち実際に出席したのは383人だったが、会場は一見して満席に近い状態に見えるほどの盛況だった（図5-1～4）。



図5-1 東京会場の様子



図5-2 東京会場理事長挨拶

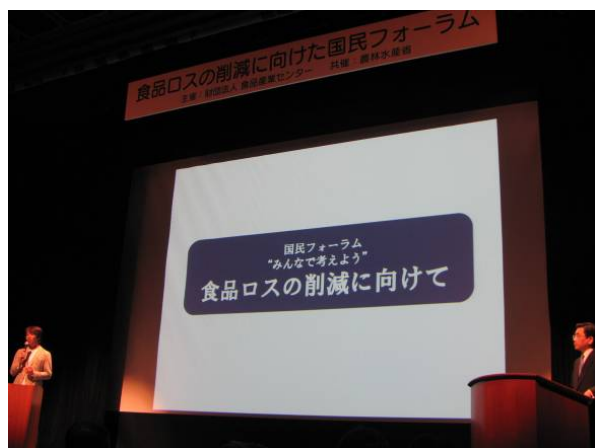


図5-3 東京会場第1部トーク&トーク



図5-4 東京会場 第2部パネルディスカッション

食品ロスの削減に向けた国民フォーラムへの参加者には、プログラムとコーディネーター・パネリストの紹介及び第1部のトーク&トークで使用するデータ等をまとめた資料（参考資料1）を作成し、全員に配布した。

第1部のトーク&トークはスポーツジャーナリストの中西哲生氏を聞き手として、東京農業大学教授の牛久保明邦氏が食品ロスの現状や課題、削減へ向けての今後の方向性について解説する構成にした。

なお、第3回目の大阪会場では聞き手としてエッセイストの市田ひろみ氏が参画した。トーク&トークは基本的には事務局が作成した台本（参考資料2）に沿って進行した。

第2部のパネルディスカッションでは、コーディネーターとして環境ジャーナリストの崎田裕子氏が司会進行を担い、学識経験者、行政、食品製造、流通、外食、消費者それぞれから一人ずつパネリストとして参画していただいた。全国4箇所で開催したため、可能な限りそれぞれの開催地に縁のある方々にパネリストとして参画していただくことを基本とした（表1）。

表1に開催概要を示したように、東京会場での開催以降名古屋会場(図6)、大阪会場(図7)、福岡会場(図8)で国民フォーラムを開催したが、いずれの場合も会場が満席になるかそれに近くなり、食品ロスへの関心の高さを窺うことができた。



図6 食品ロスの削減に向けた国民フォーラム
(名古屋会場)



図7 食品ロスの削減に向けた国民フォーラム
(大阪会場)



図8 食品ロスの削減に向けた国民フォーラム
(福岡会場)

食品ロスの削減に向けて、今後の取組みの進め方を考えるために、国民フォーラムへの参加者にはアンケート調査票（表2）を配布し、本フォーラムにおいての理解度や関心の度合い、今後の取組み等を記述してもらった。4会場ともアンケートの回収率が高く、参加者の60%以上がアンケートに回答してくれた。その結果を表3-1～2にまとめるとともに、参考資料3には今後の取組みや意見について、国民フォーラム参加者の自由記述を具体的に示した。

表2 アンケート票

食品ロスの削減に向けた国民フォーラムに関するアンケート（東京会場）

本日は、フォーラムにご参加いただきまして有難うございます。今後の事業への取り組みの一助とさせていただきたく、お手数ですが、参考までに下記の項目にお答えください。

【該当箇所の□をチェックし、該当が無い場合には「その他」にご記入ください。】

1. あなたが所属しているのは

- ☐ 食品製造・加工業（食品製造・加工メーカー）
☐ 食品の卸売・小売業（百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、小売店、食品の卸売業）
☐ 飲食店、食事の提供を行う業者（食堂、レストラン、居酒屋、ホテル、旅館、結婚式場、内陸・沿海旅客船舶）
☐ 農業 ☐ 消費者 ☐ 団体関係者 ☐ 廃棄物処理業 ☐ NPO 法人 ☐ 地方公共団体
☐ その他
()

2. 食品ロスについて

(1) 第一部のトーク＆トークでの食品ロスとは何か、何が問題なのか、について

- ☐ よく理解できた ☐ だいたい理解できた
☐ あまり理解できなかった ☐ 全く理解できなかった

(2) 第二部のパネルディスカッションで話していた内容について

- ☐ よく理解できた ☐ だいたい理解できた
☐ あまり理解できなかった ☐ 全く理解できなかった

(3) (1)、(2) で「あまり理解できなかった」、「全く理解できなかった」と答えた方に

お伺いします。

どの点が理解できませんでしたか（複数選択可）。

- ☐ 食品ロスの定義 ☐ 食品廃棄物と食品廃棄物の実態
☐ 食品ロスの発生 ☐ 食品の期限表示や「納入期限」・「販売期限」の設定
☐ 「消費期限」と「賞味期限」
☐ 食品ロスを削減するためには
☐ その他

(4) 今後、貴方は食品ロスの削減にどのような取組みをしようと考えますか。

3. その他 食品ロスや本フォーラムに関するご意見等があればご記入ください。

表 3-1 国民フォーラムにおけるアンケート調査結果

1. 御社の概要について

1あなたが所属しているのは

	合計	東京	名古屋	大阪	福岡
1.食品製造業	118	82	14	11	11
2.食品の卸売・小売業	48	24	10	7	7
3.飲食店、食事の提供を行う業者	33	10	7	12	4
4.農業	1	1	0	0	0
5.消費者	108	56	18	27	7
6.団体関係	25	15	1	6	3
7.廃棄物処理業	4	2	0	2	0
8.NPO法人	16	7	1	1	7
9.地方公共団体	26	7	7	5	7
10.その他	86	54	12	11	9
11.未記入	4	2	0	2	0
合計	469	260	70	84	55
(参加者)	(751)	(383)	(134)	(160)	(74)

2. 食品ロスについて

(1)第一部のトーク&トークでの食品ロスとは何か、何が問題なのか、について

	合計	東京	名古屋	大阪	福岡
1.よく理解できた	326	193	45	51	37
2.だいたい理解できた	128	60	22	30	16
3.あまり理解できなかった	6	2	2	1	1
4.全く理解できなかった	2	1	0	1	0
5.未記入	7	4	1	1	1
合計	469	260	70	84	55

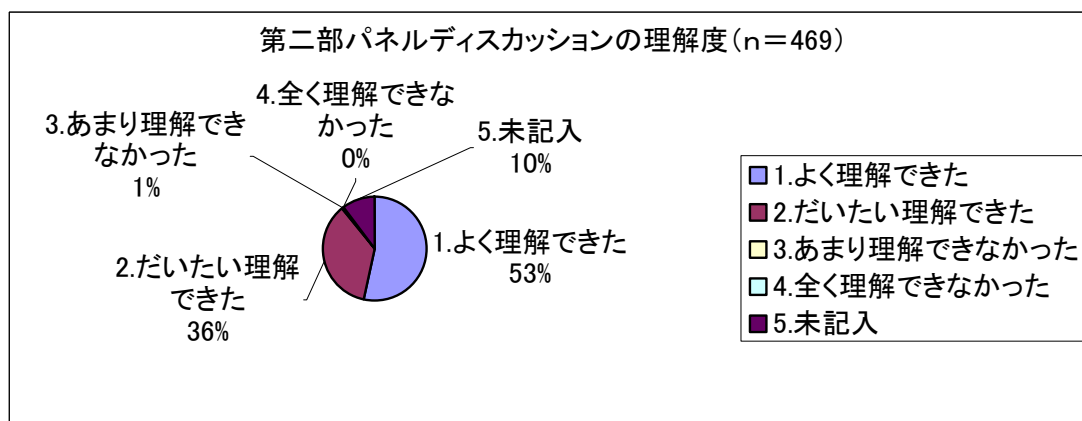
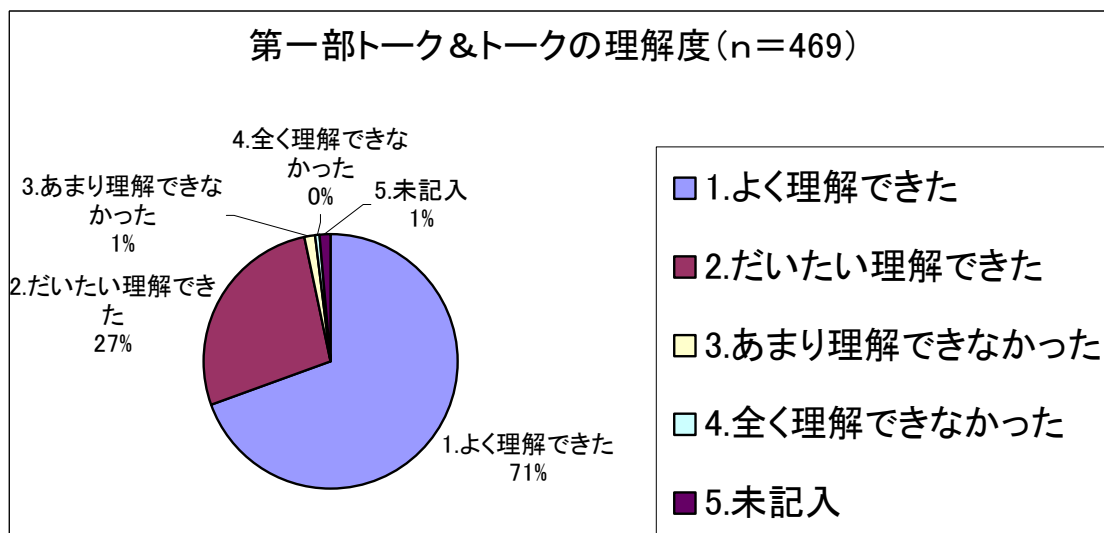
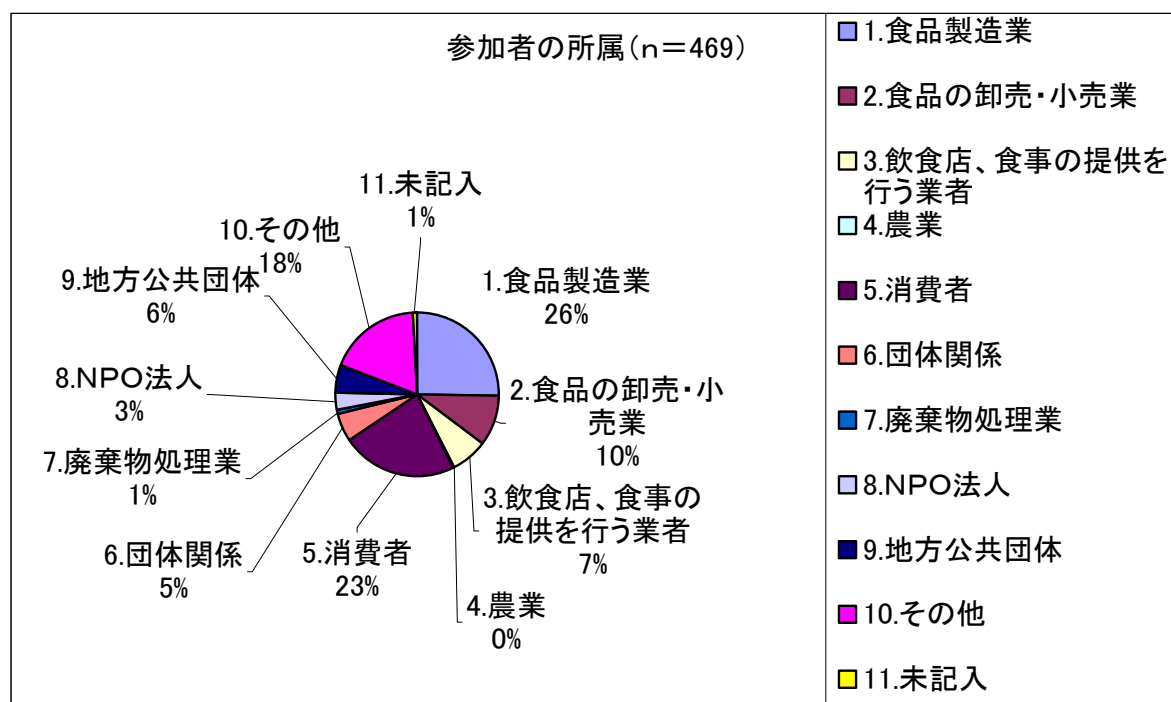
(2)第二部のパネルディスカッションで話していた内容について

	合計	東京	名古屋	大阪	福岡
1.よく理解できた	250	159	26	39	26
2.だいたい理解できた	168	75	36	33	24
3.あまり理解できなかった	3	1	0	2	0
4.全く理解できなかった	0	0	0	0	0
5.未記入	48	25	8	10	5
合計	469	260	70	84	55

(3) (1)、(2)で「あまり理解できなかった」、「全く理解できなかった」と答えた方にお伺いします。どこが理解できませんでしたか(複数選択可)。

	合計	東京	名古屋	大阪	福岡
1.食品ロスの定義	2	0	1	0	1
2.食品廃棄物と食品廃棄物の実態	1	0	1	0	0
3.食品ロスの発生	0	0	0	0	0
4.食品の期限表示や「納入期限」・「販売期限」の設定	1	1	0	0	0
5.「消費期限」と「賞味期限」	2	1	0	1	0
6.食品ロスを削減するためには	1	0	0	1	0
7.その他	10	6	0	4	0
8.未記入	1	1	0	0	0
合計	18	9	2	6	1

表 3－2 国民フォーラムにおけるアンケート調査結果の概容



国民フォーラムへの参加者は食品関連事業者が約４０％、消費者が２３％を占め、その他団体関係やＮＰＯ法人等参加者の層が多岐に渡り、初期の目標通り多種多様な方々に関心を寄せていただいた。また、参加者の食品ロスへの理解度も非常に高く、第１部、第２部ともにその内容について良く理解できた、だいたい理解できたを合わせると参加者の９０％前後が理解したと回答している。参加申込者が４会場合わせて約１，０００人、そして実際に参加した人数はその７５％以上に達することからも、食品ロスへの関心の高さが分かり、またフォーラム自体の周知活動についても実効性があったと評価できる。

３． 食品ロス削減推進セミナー

食品ロスの削減に向けた国民フォーラムは東京、名古屋、大阪、福岡の大都市圏４箇所で開催したが、食品ロスの削減はまさに全国民的課題であることから、これらの地域以外の地方都市４箇所では食品ロス削減推進セミナーとして食品ロスの削減を訴えることにした。

食品ロス削減推進セミナーの開催概要は表４に示す。国民フォーラムの開催地域との地理的なバランスや過去の環境セミナーへの参加実績も考慮して札幌、金沢、仙台、山口の４箇所で開催した。

表４ 食品ロス削減推進セミナーの開催概要

	開催日・会場	演題・講師	参加人数 (申込数)
1	10月27日(火) ホテルポールスター札幌 13:30～16:00 (北海道札幌市)	1.「食品ロスの削減に向けて」 (財)食品産業センター技術部長 塩谷 茂 ※容器包装リサイクル制度の解説と併せて開催	30 (37)
2	11月27日(金) 13:30～16:00 TKP 仙台駅前会議室 (宮城県仙台市)	1.「食品ロスの削減に向けて」 (財)食品産業センター技術部長 塩谷 茂 ※容器包装リサイクル制度の解説と併せて開催	53 (59)
3	1月26日(火) 13:30～16:00 石川県地域産業振興センター (石川県金沢市)	1.「食品ロスの削減に向けて」 (財)食品産業センター技術部長 塩谷 茂 2.「福井県の食品ロス削減に向けた取り組み紹介」 福井県安全環境部社会推進課課長補佐 前田英典	45 (51)
4	2月9日(火) 13:30～16:30 山口グランドホテル (山口県山口市)	1.「食品ロスの削減に向けて」 (財)食品産業センター技術部長 塩谷 茂 ※容器包装リサイクル制度の解説と併せて開催	73 (82)
計			201 (229)

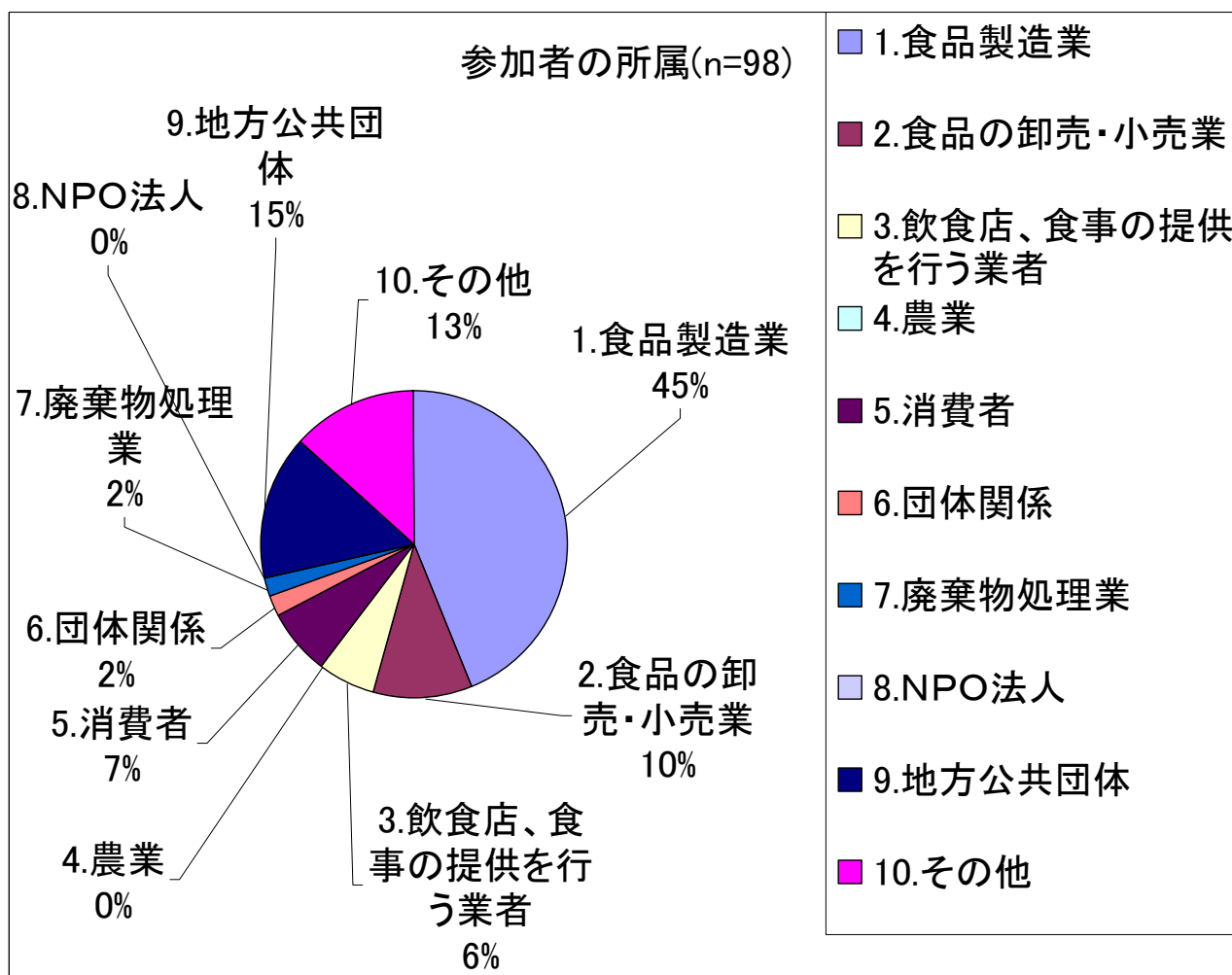
敬称略

食品ロス削減推進セミナーの札幌、仙台、山口の３会場については、容器包装リサイクルセミナーと

共同で開催し、金沢会場は食品ロス削減の単独開催とした。金沢ではすべての会場共通の内容である「食品ロスの削減に向けて」に加えて、食品ロス削減の先進的な取り組み事例である「福井県の食品ロス削減に向けた取り組み」を福井県の担当者に講演していただいた。

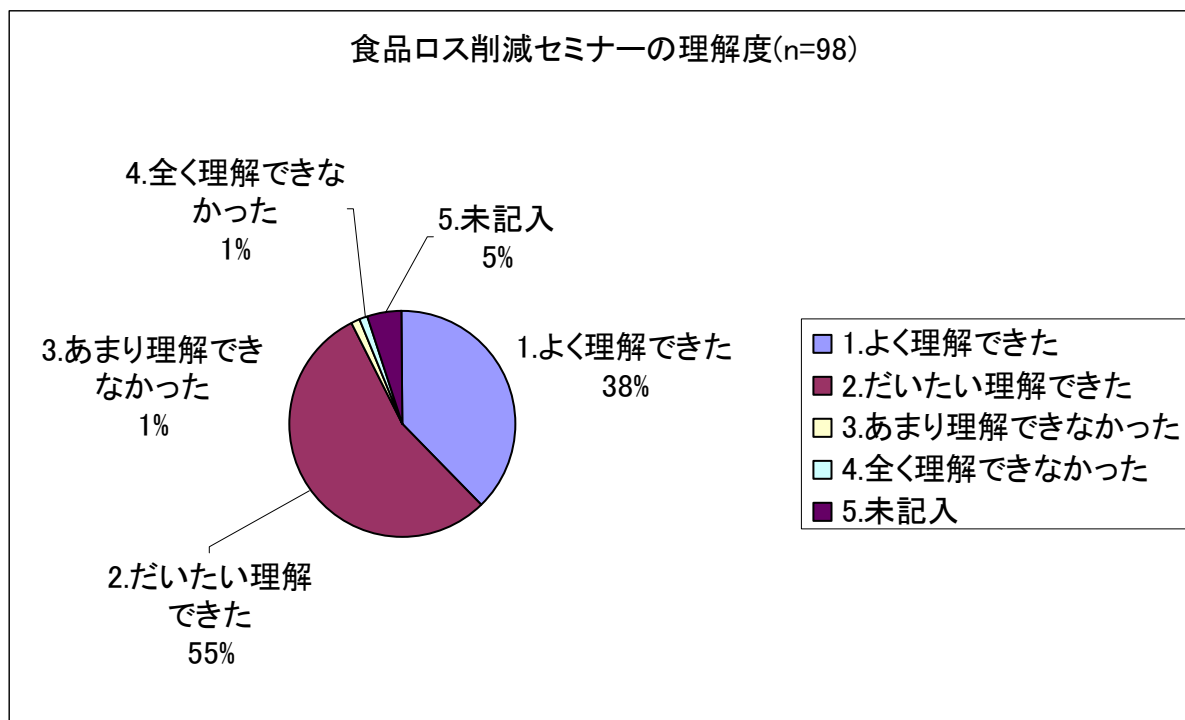
食品ロス削減セミナー参加者のアンケート回答結果から、4箇所合計での参加者の所属割合は表5、セミナーでの内容の理解度は表6に示した。また、参考資料4には今後の取り組みや意見について、セミナー参加者の自由記述を具体的に示した。

表5 食品ロス削減推進セミナー参加者の所属



セミナーへの参加者は食品関連事業者が60%以上を占め、特に食品製造業が全体の半数近くあった。割合は多くはないが、一般消費者の参加を得たのは特筆に値する。

表 6 食品ロス削減推進セミナーの内容の理解度



食品ロス削減推進セミナーの理解度については、「よく理解できた」と「だいたい理解できた」を合わせると90%以上になり、ほとんどの方が食品ロスについて理解できたと回答した。